

群 教 七	G02 - 02
	平26.254集
	社会 - 小

社会的事象の意味について考え、 表現する力を高める指導の工夫

— 討論形式による話し合い活動を通して —

特別研修員 三谷 悠也

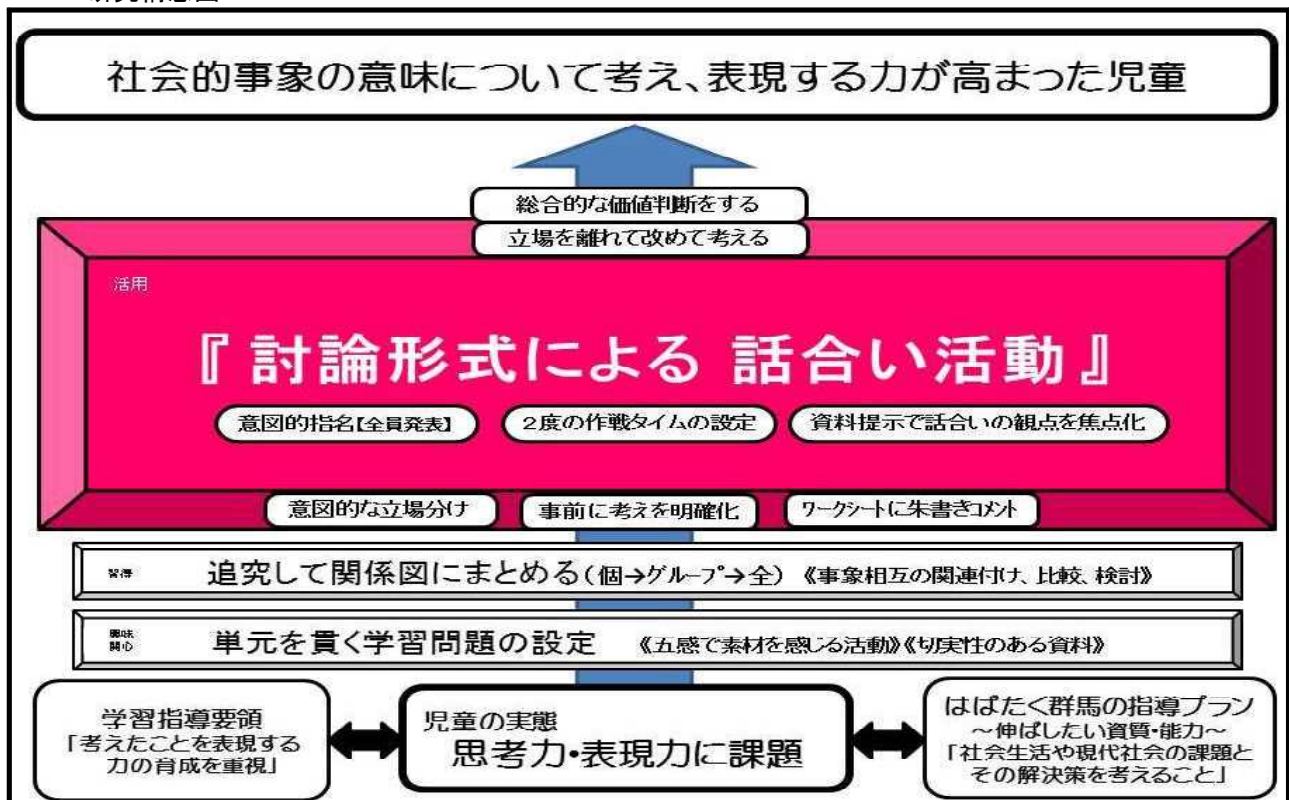
I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領解説社会編においては、全ての学年の能力に関する目標の中に「考えたことを表現する力」の育成が示されている。また、はばたく群馬の指導プラン（社会科）においても、伸ばしたい資質・能力として「社会生活や現代社会の課題とその解決策を考えること」が挙げられている。これらのことは、調べることで終わりにせず、調べたことを基にして、考えることが重要であると捉える。さらに、考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを高めていく学習など、言語活動の充実を図ることも学習指導要領などにおいても示され、他者との関わりの中で、考え表現する力を伸ばしていくことが必要不可欠であると考え。しかし、本学級は、社会的事象について自分たちの生活とのつながりやその背景について考えずに思い付きで発言する児童が多いとともに、友達の考えを基に自分の考えを練り直すことができる児童も少ない。また、一方で自分の考えに自信が持てずに表現することに消極的な児童も見られる。

そこで、単元の終末において、学習したことを生かして討論形式による話し合い活動を行うことで、日本の産業が国や国民生活とどのように関わり、今後どのようにしていったら良いか考える力や、課題への自分の考えを学習したことと比較・関連付け・総合しながら再構成して表現する力が高まると考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 実践1

本時のねらいにせまるための充実した話し合い活動にするために、次の三つの点に留意し実践を試みた。

- 話し合いの立場分けについては、授業の様子や人間関係によって教師が決める。
- 事前に自分の考えをワークシートに書かせる。
- 話し合い活動の合間に『作戦タイム』の時間を設定する。

二つの立場に分かれるという討論形式での話し合いということや、事前に自分の考えを明確にしてあるということで、児童が意欲的に発言する場面が多く見られた。しかし、特定の児童を中心に授業が進み、発言者は児童の64%にとどまった。その上、ねらいから逸れた意見も少なくなく、話し合いに多くの時間が割かれてしまうことになった。また、話し合い後のまとめでも、話し合いでの自分の立場から離れられない児童も見られた。

(2) 実践2

実践1を踏まえ、実践2では、新たに次の四つの手立てを追加することにした。

- 事前に児童の考えを書いたワークシートにコメントを入れる。
- 『作戦タイム』の回数を2回に増やす。
- 深めたい内容については、タイミングをみて資料を提示し、話し合いの観点を焦点化する。
- 話し合い活動後に、立場を離れ、改めて自分の素直な気持ちを考える時間を設定する。

事前にワークシートに書かれた児童の考えに対し、認めたり助言したりするコメントを入れておいたので、自分の考えに自信を持てたり多様な視点に気付いたりすることができ、ほぼ全員が発言することができた。また、作戦タイムの回数を増やし、友達と考えを交流したり自分の考えの根拠となる資料を探したりできる場面を増やしたことで、より自分の考えを練り直すことができ、話し合いの流れに沿って自信を持って発言できるようになった。話し合いの中で、ねらいにせまるために深めたい内容について資料を提示したことも、話し合いの観点が焦点化され、社会的な背景とのつながりに気付く上でとても有効であった。また、話し合い活動後に、立場を離れた素直な気持ちを考える時間を設定したことも、課題を客観的に捉え、社会的な事象がどのように生活と関わっているのか話し合ったことを基に考え、その重要性に気付かせることに効果的であった。

III 研究のまとめ

1 成果

- 社会的な事象の課題について、学習したことや経験したことを根拠に自分の考えを表現したり、自分の考えと友達の考えや新たに得た情報を比較・関連付け・総合しながら説明し合ったりすることで、社会的な事象の意味について考え、表現する力を高めることができた。
- 社会的な事象について、自分の考えと異なる立場で考えたり、二つの立場で話し合ったりしたことで、社会的な事象とのつながりやその背景について考える力を培うことができた。

2 課題

- 考える視点を確認せずに作戦タイムへ移ってしまったので、話し合いの流れがつかみきれない児童は、友達との交流において消極的になってしまった。

3 提言

- 限られた時間の中でより充実した話し合い活動にするために、書く活動を精選したり、タイミングよく意図的指名を行って話し合いの流れをコントロールしたりする工夫が必要である。
- ねらいにせまるために、どのような話し合いのテーマが良いのか、さらに検討していく必要がある。
- 学習したことを活用する場になるので、単元全体についてしっかりデザインをしていく必要がある。

<授業実践>

実践 1

1 単元名 「米作りのさかんな庄内平野」(第5学年・1学期)

2 本単元及び本時について

本単元は、消費者の需要に応えながら、生産者がより良質なものを生産し出荷するために様々な工夫や努力していることについて調べ、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりを持って営まれていることについて理解することを目標としている。学習問題を「なぜ、日本のお米はとてもおいしいのだろうか?」と設定し、本時は、全11時間計画の11時間目で単元のまとめとなる。これまでに単元の中で学習してきたことを生かした討論形式による話し合いを通し、これからの米作りについて考えさせることで、日本における米作りの重要性について気付かせることをねらいとしている。

3 授業の実際

【事前】

社会の授業における発言の様子や人間関係、男女バランスを考慮して、教師が立場分けを行った。また、自分の立場における考えを図1のワークシートに記入させ、誰がどのような考えを持っているか把握しておいた。

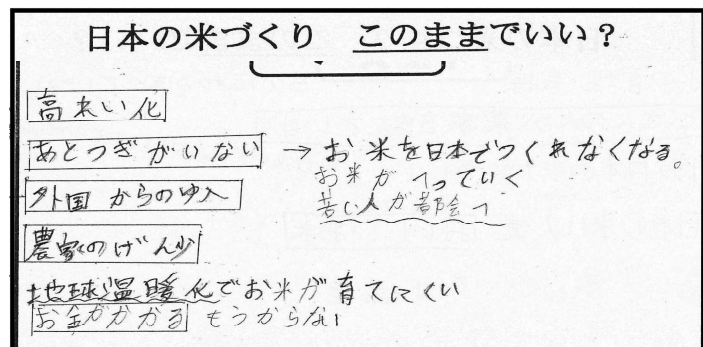


図1 ワークシートへの事前の書き込み

【討論形式による話し合い活動】 テーマ『日本の米作り このままでよい?』

話し合いを、イエス派の考え→ノー派の考え→自由討論→作戦タイム→自由討論の流れで行った。事前に自分の考えをワークシートにまとめていることもあり、それぞれの立場の最初の主張は、学習したことを活用しながら活発に行われた。自由討論でも、前半は、反論や付け足しが意欲的に行われた。

学習したことを活用しながら話し合い活動が行われる様子

ノ S1: 温暖化によってこれからお米がとれなくなってくるのでこのままではいけないと思う。

任入 S2: 暖かくなるぶんには、植物は育ちがよくなるから平気だと思う。

ノ S3: でも、日本のお米は寒い地方でたくさん作られている。おいしいお米を作るには気候がとても大切だよ。

任入 S4: 今は暑さに強いお米とかを品種改良で作っているから大丈夫。暑さに強くて、しかもおいしいお米を開発していけばいい。

ノ S5: 簡単に開発といっても、すぐにできるものじゃない。何年も何年も失敗しながら一生懸命研究して、やっと開発されるんだからすぐには難しいよ。

T: それはどこの情報?

ノ S5: 資料集。資料集の26ページ。

ノ S6: 本当だ。『新品種を作るのは、大変手間と時間のかかる仕事です』って書いてある。ナイス!!



図2 話し合い活動の様子

ノ S1: 外国からの輸入によって、日本のお米がピンチになってしまっているなのでこのままではまずい。

任入 S2: 外国からのお米は、人間が食べるというより、家畜のえさでだいたいが使われているから大丈夫。

任入 S3: 逆に今は、日本のお米が大人気で、海外で寿司ブームになっているって先生も言ってたよ。「パスマティライス」より「つやひめ」の方が断然おいしかったでしょ! 日本のお米はおいしいから大丈夫! 心を込めて丁寧に作っているから超おいしい!!

【作戦タイム】

座席の近所同士で話し合ったり、自分の考えに関連した資料を教科書などから見つけたりする作戦タイムを5分間設定した。普段からいろいろな授業で、近所同士で話し合う活動を設定してきているので、大半の児童は友達同士でお互いに考えを交流していた。その際に、それぞれの立場の話し合う様子を見ながら、後半の自由討論で自信を持って発言できるように、助言をしたり、考えを認めたりした。

作戦タイムで自分の考えを友達の考えや新たに得た情報から再構成している様子

仁 S1:「米作り農家を増やそうと農業高校で学んでいる人もいる」って言うのはどうかな？

仁 S2:小学生も、って教科書に書いてあった！

T:小学生ってみんなも小学生だよな？総合の時間で何かしなかった？

仁 S2:あっ、田植えした！！

仁 S3:東京からも小学生が来て一緒にやったんだよね。

仁 S1:うちらみだいな田舎の小学生だけじゃなくて、東京の小学生も体験にわざわざくるってことはさ、たくさんの小学生が米作りに興味を持つんじゃない？このままいけば米作り農家が増えるかもよ。



図3 作戦タイムの様子

【まとめ】

話し合いを終了し、いよいよ本時のめあてである「これからの日本の米作りについて考える」ことを伝え、資料「稲作農家数の移り変わり」を提示した。年々減少する農家数の折れ線グラフを見て、「今後農家の数はどうなっていくでしょう？」と発問すると、至るところから「上がってほしい！！」との声が挙がった。そして、一人の児童（A君）が挙手をし、「ずっと日本人が食べてきた伝統であるお米を守っていきたい！」と発言。クラス中から「そうだそうだ！」「いいこと言う！」などと賛同する声が聞かれ、中には拍手する児童も見られた。

ふりかえり 最初はーがよかったけど、やっでいううちに、仁スに対する支持が大きくなっていった。
最後に A君が言ってくことに心がつかえ、この日本の和食という食文化をなくしたくないと思った。お米よく
仁スもーもお米づくりを守っていききたい気持ちと同じだ」ということに気がついた。

図4 ワークシートによる振り返り

4 考察

テーマについて二つの立場に分かれて意見を言い合う討論形式による話し合い活動は、自分の立場がはっきり決まっているので考えを明確にしやすく、全児童がワークシートに自分の考えを前もって書くことができていた。また、普段の授業の発言の様子や人間関係などを考慮して意図的に立場分けを行ったので、あまり優勢劣勢偏り過ぎることなく活発に意見が出され、学習したことや体験したことを基にして自分の考えを作り上げている場面（活用している場面）も多く見られた。振り返りでは、自分の立場だけでなく相手の立場の考えのよさも受け入れ、共通点を見いだして「この日本の和食という食文化をなくしてはいけない」と総合的な価値判断を行う図4のような児童の姿も見られるなど、社会的事象の意味について考える力の高まりを感じることができた。

しかし、作戦タイムが1度しかなかったため、続けて考えを言い合う時間が長くなってしまい、次第に特定の児童を中心に話し合いが展開され、発言した児童は25名中16名にとどまった。また、現在話し合われていることと自分の考えとをつなげられずに、ねらいから逸れた意見を言ってしまう児童も見られた。話し合われていることに対して自分の考えを整理したり、友達の考えと比較・検討したりできるような場面をより設定していく必要があったと考える。振り返りにおいても、社会的事象について考え、日本にとっての米作りの重要性に気付くことができた（ワークシート・発言による）児童は18名であった。残りの7名は、討論での自分の立場から抜け出せず、社会的事象の意味について考えて総合的に価値判断することができていなかった。

実践2

1 単元名 「自動車をつくる工業」(第5学年・2学期)

2 本単元及び本時について

本単元は自動車産業に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを理解するとともに、これからの我が国の工業生産は、消費者や社会のニーズに応え、国民生活を支える重要な役割を果たしていることに気付くことを目標としている。学習問題を「なぜ、日本の自動車は世界でも人気があるのだろうか?」と設定し、本時は全13時間計画の13時間目で単元のまとめとなる。これまでに単元の中で学習してきたことを生かした討論形式による話し合いを通し、これからの自動車づくりについて考えさせることで、人と環境の両方にやさしい自動車づくりをしていかなければならないことに気付かせることをねらいとしている。

3 授業の実際

【事前】

実践1で行ったことに加えて、より自分の考えに自信を持つことができたり、ねらいにせまるきっかけになりそうな考えを意欲的に発言したりできるように、ワークシートに賞賛の言葉や助言を朱書きした(図5)。

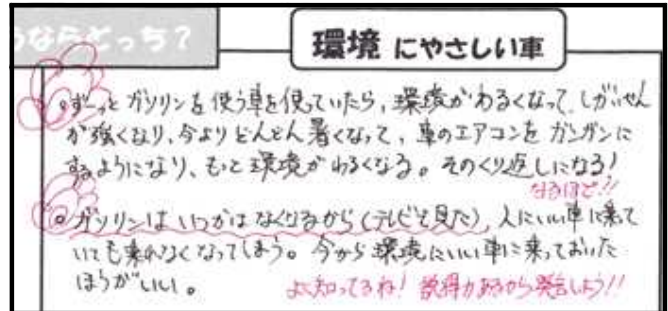


図5 ワークシートへの朱書き

【討論形式による話し合い活動】 テーマ『もし買うなら 人にやさしい車?環境にやさしい車?』

実践1の考察を踏まえ、話し合いの流れを、**人にやさしい車派の考え → 環境にやさしい車派の考え → 作戦タイム → 自由討論 → 作戦タイム → 自由討論**に変更し、作戦タイムを2回入れることにした。

作戦タイム明けの自由討論では、未発言の児童や新たな観点の考えを持った児童を優先的に指名し、話し合いではほぼ全員の児童が発言することができた。途中、タイミングをみて、二つの資料を提示すると、更に話し合いが活発になっていった。終盤、話し合いが深まってくると、それぞれの立場のよさがクローズアップされてきて、どちらの車を買うかという個人的な考えではなく、どちらも大切であることを受け入れながらの話し合いになっていった。

話し合いが進み、それぞれの立場のよさが明確になっていく様子

- 人 S1: 環境のことばかりだと、事故が多くなってしまっって人の命がなくなる。まずは人の命が大事。
- 環 S2: 交通事故よりも、環境が悪くなったほうがたくさんの方が病気になるたり死んだりしてしまう。S社でも、たくさん環境に気を付けているって言ってたし、パンフレットにも環境のことがたくさん載っているよ。
- 人 S3: でも、さっき先生が出した資料にも書いてあるけど、環境環境って言う間に、日本だけでも毎年約4,400人も交通事故で死んでいるんだよ。そのためにS社はアイサイトを開発したと思う。
- 環 S4: でも、安全安全って言う間にだっって、環境がどんどん悪くなって人間がほろびてしまうんじゃないの?
- 人 S5: そりゃあ環境ももちろん大切だけど、人の命がなかったら環境を良くしたってしょうがないよ。
- 環 S6: でも、安全の装備も大事だけど、エアバッグの衝撃で怪我をしてしまうこともあるらしいよ。
- T: じゃあ、エアバッグはいらないね?
- 環 S6: いや、エアバッグがないと困る。
- 人 S7: どちらの味方だよ!?
- 環 S6: あれ??わかんなくなっちゃった。

【作戦タイム】

1回目は、最初にそれぞれの立場の主張を発表した直後に設定したので、児童は、相手の立場の考えについて反論をしようと、友達と交流したり資料を探したりしていた。また、机間指導をしながら、最初の主張で出されなかった観点到に気付いている児童には声をかけて賞賛し、発言するように励ました。2回目

は、直前に資料を提示したこともあり、提示した資料に関連したことについて考えを交流する児童が多かった。話合いも深まりを見せていたので、何とか説得力のある意見を言おうと、意欲的に友達と交流し、交流する人数の輪も大きくなっていった。

【まとめ】

実践1の考察を踏まえ、話合いをしてからすぐにまとめに入らずに、二つの立場で向かい合っていた座席から全員黒板を向いた座席に変え、立場を離れて今の素直な気持ちを書く時間を設定した(図6)。それまでの活気に満ちていた教室の雰囲気から一変して、静かで落ち着いた雰囲気になったのが感じられた。数人の児童に意見を求めると、「環境と人の合体した車がいい」「環境と人の良いとこどりの車がいい」との発言が聞かれた。そこで、2013年国内販売台数1位である自動車のパンフレットを電子黒板で提示し、消費者のニーズは人にも環境にもやさしい車であることを確認した。最後に、これからの日本の自動車づくりで大切なことは何かワークシートに書かせて、振り返りを行った(図7)。



図6 座席を前に向け立場を離れて考える様子

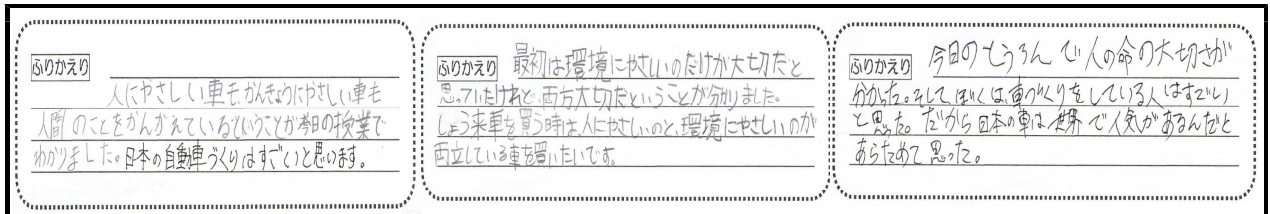


図7 ワークシートによる振り返り

4 考察

事前に自分の考えを書いたワークシートに、良い考えを認めたり助言したりするコメントを朱書きしたことで、自信を持って発言することができていた。また、作戦タイムを2回設定したことで、児童は自分の考えを友達の考えと比較・関連付けたり、自分の考えの根拠となる資料を見つけたり、教師による支援が受けられたりし、自分の考えを練り上げながらより明確にすることができた。結果的に、ほとんどの児童が、話合いの中で自分の考えを進んで発言することができた(図8)。また、作戦タイムにおいて、机間指導する中で、児童一人一人の考えをより把握でき、話合いでの意図的指名や資料提示のタイミングの見極めにも役立ち、話合いの深まりへとつながった。そして、話合い後に、立場を離れ自分の素直な気持ちを考える時間を設定したことで、全ての児童が両方の立場の様々な考えを比較・関連付け・総合して価値判断をすることができた(図8)。今後は、作戦タイムの持ち方や指名の仕方など、話合いをいかにうまくマネジメントしていくかより工夫していく必要がある。

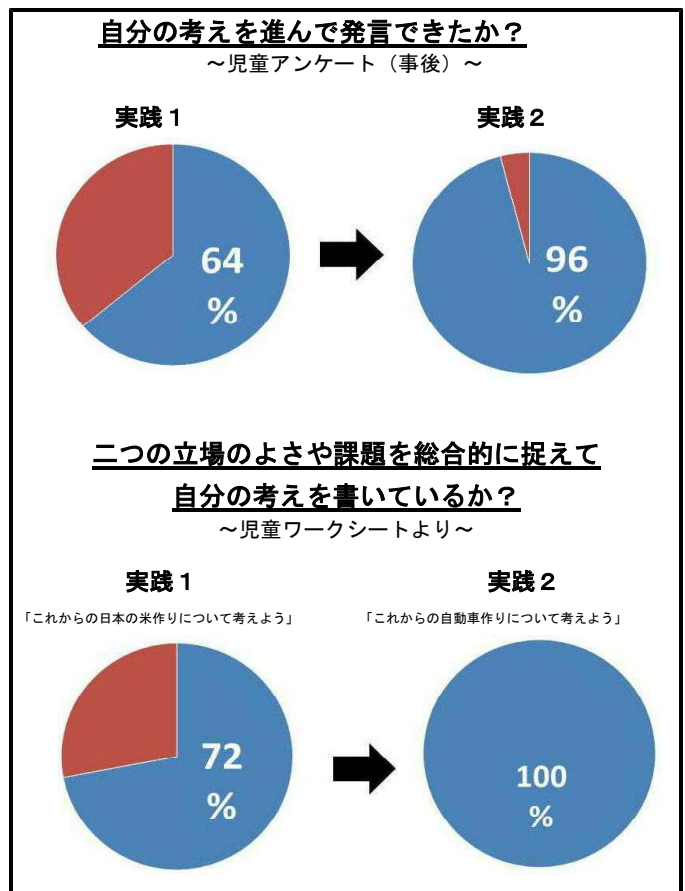


図8 実践1と実践2の比較